



私たちの家族

日本新使徒教会ニュースレター

2015年（平成27年）第7号・新使徒教会日本教区発行

The Newsletter of the New Apostolic Church Japan Number 7, 2015

〒206-0014 東京都多摩市乞田 1320(本部) Tel. 042-374-0070

〒799-2468 愛媛県松山市小川甲 110 番地 17 Tel. & Fax. 089-994-3556

編集者：ヴォルフガング・R. アーデ Tel 090-6923-0115

矢幡 賢治 E-mail: nac_matsuyama@ybb.ne.jp

(新使徒教会季刊誌 Community 第2号 Editorial より)

キリストにある喜び

敬愛する世界中の兄弟姉妹の皆さん、

2015年も半分が過ぎました。うれしいこともありましたし、悲しいこともありました。がっかりしたことや、事件、事故もありました。私が今年の標語——「キリストにある喜び」——を発表した時は、この語の持つ多面性を理解しておりませんでした。この世の幸福を考えた人もいるかもしれませんが。この世の幸福を喜ばない人はいないからです！しかしこの標語には、そういうことよりもっとも多くの意味があるのです。例えば、礼拝において私たちが感じる喜び、罪が赦されたことによる喜び、聖餐によって体験する喜びであります。交わりというすばらしいひととき、一体感を得られるすばらしいひととき、励ましや援助を受けられるすばらしいひとときは、私たちみんなが体験してきているのではないのでしょうか。この標語は、これからもずっと掲げられていくことでしょう。単なるスローガンではないのです。

「キリストにある喜び」という今年の標語に関連して、いくつか述べたいと思います。

■ 神の子たちによるすばらしい交わりに加わることを、喜ぶことができます。私たちは、一人ではなく、会衆の一員として、共に信仰の道を歩むのです。

■ 主は私たちを愛して下さり、私たちの身代わりと

して死なれました。

私たちの罪は赦されるのです。そして主は、私たちを食卓に招き、親しく交わろうと私たちをお召しになります。主は礼拝のたびに、私たちの真ん中におられ、私たちは主を体験するのです。

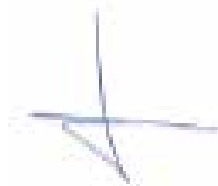


■ 主はまたこの世においでになります。このことを主は約束されました。この約束を守って下さるでしょう。私たちが待ち望んでいるのは、何よりも、このことではないでしょうか。主は御自分の花嫁を迎えにおいでになります。主の来臨が待ち遠しいです！

皆さんも、これはすばらしい、と認めるはずですよ！

これは私たちみんなで喜べることです。詩編 103 編 2 節の言葉を思い出して下さい「主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。」

喜びに満ち溢れますように。



ジャン＝ルーク・シュナイダー

不必要な重荷

アフリカに滞在中、私は変わった体験をしました。小型トラックで通りを移動していると、ある老人女性が頭に重い荷物を載せていました。「お気の毒に！大変そう」と私たちは思い、私たちはその女性に、車に乗せてあげましょう、と言いました。するとその女性は感謝しながらトラックの荷台に乗り込みました。ところがその後の出来事に驚いて、私はしばらく考え込んでしまいました。その女性は一番後ろのベンチに腰かけたものの、荷物を頭の上に載せたままバランスを取り続けたのです。

女性の行動についてゆっくり考えれば、実はそう珍しいことではない、ということがわかります。神様はいつも私たちを救おうとして下さいます。私たちから重荷を解き、不必要な負担や悩みから解放しようとして下さいます。信仰の道の歩みや人生の歩みを困難にする——しかもしばしば私たちを失望させる——要因

を取り除こうとして下さいます。それに対して私たちはどうするのでしょうか。悩みを神様にあずけることなく、その悩みをずっと持ち歩きます——自分たちがどれほど苦勞しているかを、人に見てほしいのです。神を十分に信頼し、神の助けに委ねることなく、不安を感じながら、ああでもないこうでもない、と思いつねるのです——^{ぬか}糠喜び、ということにならないように、^{たかのぞ}高望みをしない方がよい、というわけです。

隣人を赦さず、失望したことを記憶にとどめ、受けてきた不当な扱いを根に持ちます。——つまり、人からかわいそうだと思ってほしいのです！過去を清算せずに、自己^{れんびん}憐憫^{ひた}に浸るのです。——なんでこうひどい目に遭わされなきゃいけないんだ、と。

しかし、よく考えてみれば、もっと単純ですっきりすることかもしれませんよ！

主使徒の礼拝からの所感

イエスの御名によって願う

ヨハネによる福音書 14章 14節

「わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」



主使徒と使徒一行を歓迎するタンザニア・トドマの子供たち

敬愛する兄弟姉妹及びゲストの皆さん、ここ東アフリカ教区における神の御業にとって、今週の日曜日は、本当に素晴らしい日であります。アフリカに属すすべての教区使徒が一堂に会しているのは、一名の教区使

徒が引退され、代わりとして一名の教区使徒が任命されるためです。本日は、東アフリカ教区の歴史において、決定的な日となることでしょう。とはいえ心配は無用です。主人が変わるわけではありません。一名の新しい僕が任命されるだけです。私たち——主使徒、教区使徒、使徒たち——はイエス・キリストの僕に過ぎません。イエス・キリストは主人、すなわち主であります。私たちは僕に過ぎません。新しく任命される教区使徒も主の僕であり、その点では前任者と全く同じであります。しかし、私には願いがあります。私たち一人ひとりが——自分も含め——本日、信仰の目標に向かって決定的な一歩を踏み出すことによって、キリストにさらに近づきたい、ということであります。キリストに向かって大きな一歩を踏み出しましょう。そうすれば、私たちはキリストに似た者となり、キリ

ストと似た振る舞いをし、キリストと似た対応をし、キリストの御旨を実行することができるでしょう。

ただいま読んだ聖句は、素晴らしい約束の言葉であります。イエス様は「わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう」と言っておられます。人々が抱いている願いのすべてを想像してみてください。イエス様にお願いすれば、その願

いのすべてがかなえられるというのであれば、すばらしいことです。しかしイエス様は、この約束に、いくつか条件を付与されました。一つ目の条件は、イエスを信じなければ

ならない、ということであり、御自分が神の御子であることを信じなければならぬ、ということです。イエス様は奇跡をなさいますし、素晴らしいお話を下さる大預言者です。また私たちが個人的に抱える問題について援助もして下さいます。しかしそれ以上に、私たちが信じなければならぬのは、イエス様が神の御子であること、そしてそのイエス様が救い主としてこの世においでになって、人類を救い、人類に永遠の救いを準備させて下さるお方である、ということです。ですから、イエス・キリストが私たちの問題を解決して下さいるお方であるだけでなく、神の御子、魂の救い主でもあることを信じなければなりません。

イエス様が約束に付された二つ目の条件は、願い事をイエスの名によって、言い換えれば、イエス様が私たちの立場になって願われているようにして、行わなければならない、ということでもあります。自分の願い事を叶えていただきたいならば、イエス様御自身がなさっているような祈り方をしなければいけません。イエスの名によって、とは、イエス様御自身が願って下さる、ということです。これまで誰かが願い事をするためにイエス様のところに来て、その人に十分な信仰が無いと判断したり、聞き入れることが不可能な願い事であったりすれば、イエス様は必ずその願いを拒否されました。ファリサイ派の人の中に「先生、しるしを見せてください」と言った人がいました。しかし

主にあって大切なものは、いつも、この世の何よりも、永遠の命です。ですから、ものごとの優先順位を変えて下さい、と主にお願いしても、意味はありません。

イエス様はそれを断り、こう言われました「よこしまで神に背いた時代の者たちはしるしを欲しがすが、預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない。つまり、ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、大地の中にいることになる」(マタイ 12:39-40)。つまり「もしわたしを信じようとするなら、復活を信じなければならない。それ以外のしるしを得ようとしてはならない」ということをあきらかにしているのです。

敬愛する兄弟姉妹の皆さん、神の御子を信じなければいけません。救い主を信じなければいけません。その救い主が私たちのために御自分の命を犠牲にされたことを、信じなければいけません。このようにして御子は御自分の愛を証しされたのです。毎朝、神に「奇跡を行って、私への愛がいかに大いなるものであるかを示すことはできないのですか」などと申し上げることはできません。そのようなことをしても意味がありません。私たちが愛していることは、イエス様が昔に証ししておられるからです。つまり私たちの代わりに御自分の命を投げ出されたことです。

また「あなたの御業が本当に救いの業であることがわかるように、奇跡を行って下さい」などとイエス様に要求することもできません。ここドドマの神の子たちに、これぞ御業だ、というものを証明するために、神様が何か素晴らしいことをなさるでしょうか。神様はそのようなことはなさいません。神様はこう仰せになります「これがわたしの業であることは、私の子ら

祭壇横に着席する使徒及び監督



が証している。彼らは新しい被造物として成長しているのだ。」ある意味で復活が実現しつつあるわけです。古い性質が死に、新しい被造物が姿を見せつつあります。私たちが神の御業を信じるのは、新しい被造物が姿を見せつつあるのを自分たちの目で見ているからです。

イエス様は多くの喩え話を示して下さいました。その一つに、ムナの喩えがあります。ある立派な家柄の人が遠い国に旅立つことになりました。彼は出発前に、十人の僕を呼んで、各人に一ムナずつ渡して、「わたしが帰って来るまで、これで商売をなささい」と言いました。彼は戻って来ると、僕を呼びつけて、売り上げを訊きました。僕の一人は、受け取ったムナを保管したまま何もせず、主人に「あなたは厳しい方なので、恐ろしかったのです」と言いました(ルカ 19:13,21)。しかし、主イエスは次のことを明快に述べられました。つまり、この僕には命令が与えられていて、その命令を実行すべきであった、ということがあります。僕がすべきことは、命令に従うことだけだったのです。イエス様は「わたしは神の子であるだから私の言葉は消え去ることはない」と述べておられます。

こんにち、きっと多くの人、イエス様にこう訴えたいのではないのでしょうか「福音の内容を変えていただけませんか。よくわからないところがあるのです。今の時代に合うようにしてくれませんか。私が住む地域に合わせてくれませんか。私の置かれている条件に適合させて下さい。」しかしイエス様はそうなさいま



せん。イエス様が神の御子であることを信じる人は、御子の言われたことが永遠に有効であることを知っているからです。イエス様は、私たちを理由にして、福音を変えるようなことをなさいません。そのようなことをイエス様にお願いしても無意味です。

イエス様の御心と一致しないことは、他にもあります。罪人を罰して下さい、とお願いしても意味が無

強い信仰を与えていただきたく
主にお願いするならば、
主は与えて下さいます。
主も私たちのために、
全く同じことを求めて
祈って下さるからです。

いのです。ある時、弟子たちが罪人を罰しようとして主にこう言いました「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」(ルカ 9:54)。するとイエスは彼らをお諫めになりました。またある時、律法学者とファ

リサイ派の人々が一人の女性を連れて来て、イエス様にこう言いました「先生、この女は姦通をしているときに捕まりました」(ヨハネ 8:4)。彼らはイエスがこの女性を罰するだろうと思って、このようなことを言いました。しかしイエスは、これが御心ではなかったため、罰することを拒否されました。罪人を罰してほしい、とイエス様にお願いすることは、意味がありません。イエス様はそのようなことはなさらないのです。イエスは救い主であり、こうした罪人であっても、最終的に救おうとしておられますから、罰を与えようとはなさらないのです。

中途半端な気持ちでイエス様に祝福をお願いすることも意味がありません。イエスは神の御子であり、完全な思いを期待しておられます。イエスは、山上の説教において、時の終わりになって入れてもらおうと思って戸を叩く大勢の人たちについて説かれました。「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。わたしの天の父の御心を行う者だけが入るのである。かの日には、大勢の者がわたしに、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ』」(マタイ 7:21-23)。このよう

な人たちが御名によって優れた行いをして、決意が定まっていなかったことを、御子は御存知だったのです。気持ちが中途半端だったのです。

もう一つの例を示します。イエスがマリアとマルタと一緒にいられた時、マリアは主の足元に座って、話を聞いていました。マルタはいろいろな準備をしていて忙しくしていました。マルタはこう言いました「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせているが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」するとイエスはこう仰せになりました「マリアは良い方を選んだ」(ルカ 10:40,42)。私たちは、永遠的な生よりこの世の生活

が重視されるようなことを、イエス様に求めることはできません。主にとっては、永遠的な生の方が、いつも大切なのです。ですからその優先順位の変更を求め、意味がありません。主はそんなことをなさいません。このようなわけで、主にお願いしても無意味のものがある、ということをおわかりいただけたかと思えます。無意味のものを主が変更することはできません。こうした無意味のものは、私たち自身の信仰の欠如を示すものですし、御旨に則していないからです。主は私たちが信じることを願っておられるのです。

では、主に何をお願いすればよいのでしょうか。答えは実に簡単です。イエス様が御自分の父にお願いされていたことを、私たちがイエス様にお願いすればよいのです。イエスはシモン・ペトロにこう言われました「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」(ルカ 22:32)。どんなことがあっても信じるような強い信仰を与えて下さい、と主にお願いすることができます。しるしがなくても主が言われたというだけで信じるような強い信仰を与えて下さい、とお願いすることができます。強い信仰を与えて下さるよう、主にお願いすれば、主はそれを与えて下さいます。主は私たちのために、ちょうど同じことを願って祈って

下さるからです。

私たちはイエスの名によって「御心のままに行ってください」と祈りたいと思います。これが容易でないことはわかります。御旨と合致しない場合もあるからです。神は我々を苦しめたいのか、気分を悪くさせたいのか、あるいは死んでほしいのか、と私たちは思います。神は、苦しい時も従順であり続けてほしい、と願っておられるのです。苦しまなければならない時でも、信仰に忠実であってほしい、と願っておられるのです。

何が天の父の御旨なのか、イエス様は正確にわかっておられました。「これが自分の歩まねばならない道なのだ。しかし自分は最後まで神の御旨に

忠実に従おう」ということを認識しておられました。これが神の御旨だったのです。「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」と言われた時(ルカ 22:42)、「父が自分を苦しめようとか死なせようなどと思っているわけではない。父はただ最後まで忠実でいてほしい、と願っているだけなのだ。だから父の御旨が実現されなければならないのだ」ということを悟られたのです。私たちがイエス様の同様に「御心のままに行ってください」と祈るなら、どんなことがあっても忠実であり続ける決心をしたこととなります。この決心をしたならば、イエス様は私たちを助けて下さるでしょう。

イエスの名によって祈るとは、イエス様が考えておられる方法で恵みをいただけるようお願いすること

強い信仰を与えていただきたく
主にお願いするならば、
主は与えて下さいます。
主も私たちのために、
全く同じことを求めて
祈って下さるからです。



でもあります。恵みを獲得するために何をしなければならぬかを、イエス様は極めて正確に教えて下さいました。つまり、私たちは謙虚、悔い改め、隣人への赦しを行わねばなりません。それがイエス・キリストの福音であり、これを実行した上で恵みを乞うならば、その願いを叶えて下さいます。

イエスは天におられ、私たちを赦すために天の父に執り成して下さい、と使徒ヨハネは言っています「たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます」(ヨハネ I 2:1)。天にいますイエス・キリストが私たちのために執り成して下さいのです。ですから、私たちが謙虚になり、悔い改めて、赦しの心で、恵みを願うならば、イエス様は私たちに恵みを与えて下さいます。イエス様は私たちに同じことを求めておられるのです。

また、イエスは、使徒たちが一つになれるように祈られました。そして彼らを通してイエス・キリスト信じるすべての者たちのために祈られました。ですからイエスは私たちのためにも祈って下さったのです。私たちが使徒を通してイエス・キリストを信じています。そしてキリストは御自分の民が一つになれるように祈って下さいます。すべての教会にいる一人ひとりがこう祈ってほしいと思います「天のお父様、何が起

すべての教会のすべての人が、
「父よ、何があっても一つでいましょう」
と祈ることが、私の願いです。

きても一つでありますように。」私たちの会衆が一つに結ばれるよう真剣に祈るならば、イエス様はそれを実現させて下さいます。イエス様も同じことを願って祈っておられるからです。

「時を縮めて下さい」とイエス様にお願いすれば、その願いを叶えて下さるでしょう。イエス様も同じことを願って祈っておられるからです。お分かりだと思

いますが、私たちは、これから五つの点に関連して、常にイエスの名によって祈っています。イエス様は私たちの願いに答え、叶えて下さいます。強い信仰を求め

てお願いするなら、それを与えて下さいます。何があっても、従順、忠実であり続けることができるように援助して下さい、と願うなら、そのようにして下さいます。恵みを願うなら、それを与えて下さいます。しかし、御名によって恵みを願わなくてははいけません。言い換えれば、イエス様から与えられている条件を受け入れなければならない、ということです。

一致を渴望し、それを求めて祈るならば、イエス様は叶えて下さいます。イエス様もそれを強く願われているからです。時を縮めて下さい、「主よ、すぐ来て下さい！」と祈るならば、そのようにして下さいます。主もそれを望んでおられるからです。

シュナイダー主使徒はジョセフ・エクヤ師を東アフリカ担当の教区使徒に任命しました。二人の後にいるのは、南アフリカ担当のパトリック・ムクワンズイ教区使徒とコンゴ民主共和国担当のミハエル・デップナー教区使徒。

引退に際し、感謝の花束を贈られたシャドレック・ルバシ教区使徒(中央)。左はノエル・パルネス教区使徒。



まとめ

イエス様は、御自分が受け入れられる嘆願を叶えて下さいます。

私たちの祈りは、イエス・キリストへの信仰に堅く根ざし、神の御旨に合致するものである必要があります。強い信仰と、試練における堅忍不拔と、恵みと、一致とを求め、第一の復活に向けて努力する者たちの祈りに、神は耳を傾けて下さいます。

私たちの祈りに答えていただくためには、その祈りがイエス・キリストへの信仰に深く根ざしたものであり、御名によって主に供えられたものである必要があります。言い換えれば主の御旨に合致した祈りでなくてはならない、ということです。

(新使徒教会ホームページ nac.today より)

奇跡より信仰が優先

神に至る道はどれでしょうか。奇跡?それともしるし?シュナイダー主使徒は、最近行われた北ドイツ教区の青年礼拝で「正解はどちらも違います。信仰がなければ神に向かうことはできない」と述べました。しかしこれは、私たちが頭を使うべきでない、ということではありません。

礼拝は、2015年6月7日、ドイツのハンブルクで行われました。そこで主なテーマとなったのは、「奇跡やしるしによって神を体験できるのではないか」あるいは「神を理解するためには理性で考えるしかないのではないか」と、多くの人々が考えていることについてでした。主使徒は次のようなことを述べました「神が我々を愛しているというなら、奇跡を行うことによってそれを証明すべきだ、と思っている人もいれば、理性によって神を理解できるようになりたい、すべてのことを解明したい、と思っている人もいます。」

パウロの対応

こうした議論については、すでに使徒パウロが対応していました。シュナイダー主使徒がその該当聖句を引用しました「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ



人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです」(コリント I 1:22-24)。

奇跡による神の体験とか理性による神の解明という議論に対して、パウロは「わたしたちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えている」と述べたのです。シュナイダー主使徒は、三千名ほどの礼拝出席者に対して、次のように述べました「御子が十字架につけら

れたことは、ユダヤ人にとって衝撃でした。そして、御子がこの世においでになり、死なれ、復活されたことは、ギリシア人にとって全くナンセンスなことでした。」

神は人の認識を超越する偉大さを持ったお方である

しかし、証しとして奇跡が一切起こされなかったのはなぜでしょうか。人々がイエスのところに来てしるしを求めても、イエス様は拒否されました。荒野においても、サタンの求めを拒否されましたし、ファリサイ派の人々に対しても同様でした。そして最終的に、イエスは十字架につけられたのです。つまり、イエス様の奇跡を体験した人たちは、まず神の御子であることを信じていて、イエス様から命じられていたことを実行することによって、神の御子を証ししていたのです。例えば、ペトロは、水の上を歩く前に、舟から降りましたし、カファルナウムの百人隊長は、僕が癒される前に、自宅に帰っています。シロアムの池にいた盲目の男性は、目が見えるようになる前に、池に行って目を洗いました。シュナイダー主使徒はこう強調しています「まず信仰があって、それから奇跡なのです。」

さらに、神の真理を、人の理性だけで理解しきれないのは、なぜでしょうか。主使徒は、ある例を挙げて、その理由を説明しました。つまり、先生に何でも質問してくる男の子が、先生が何かを教えるとすぐに、「ちょっと待って。わからない。ああ、もうわからない」と言うようなものだ、というわけです。「これこそキリスト教の信仰です。神様はいつも、人の理解を超越しているのです。」



証しはイエス・キリスト

シュナイダー主使徒はこう述べました「私たちが神様に、御臨在、強さ、私たちへの愛情を強制することはできません。イエス・キリストが証しであります。イエス・キリストがこの世においでになったことは、神の御臨在を象徴しています。イエス・キリストは、御自分が私たちの代わりに死なれたことによって、私たちに愛しておられることを、証しされました。そして死から蘇られましたが、それがキリストの力を証しています。」

「まず、信じなければなりません。そしてその信仰を、キリストに従うことによって、証しする必要があります。そうするならば、神を体験するでしょう。神はこれを行う者たちを補佐して下さいます。とはいえ、補佐していただく方法を、自分の都合で決めることはできません。」主使徒はこのように述べ、パウロが最も力点を置いて説いたことに言及しました。それは「十字架につけられたキリスト」とは何か、ということです。イエスは、ゲッセマネの園で祈っておられた時も、そして十字架につけられている時も、神の御旨に服従されたのです。

神からいただいたものを活用する

「キリストは我らの知恵である、とパウロは言っていますが、私たちが考える必要はない、ということではありません。むしろその逆です。」神は私たちに、知性のほかに聖霊という賜物を与えられました。その聖霊を活用したいものです。「私たちの心の中で聖霊に働いていただき、生活の中で最優先のものを聖霊に据えていただきましょう。」

人生における最優先のものとは、私たちの魂が救いに与り、キリストに似た者となり、永遠に神と親しく交わることであります。最後に主使徒はこう述べました「そして、目標を達成するために何をしなければならぬのかを考えましょう。必ずその答えを見つけることができます。神様は、そして皆さんの目標の到達を援助するために、そばにいて下さるのです。」

主使徒の東南アジア教区訪問



シンガポールとインドネシアにとっては、喜びと厳粛な雰囲気に溢れた特別な数日となりました。

シュナイダー主使徒は、東南アジア教区訪問の一環として、6月25日にシンガポールで礼拝を司式しました。礼拝のテーマはキリストにある一致で、聖句はヨハネによる福音書17章21-22節が引用されました。

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。あなたがくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」

シンガポールで礼拝を司式した後、シュナイダー主使徒はインドネシアのジョグジャカルタへ赴きました。そして27日午前、現地の教役者夫妻に奉仕を行いました。同日午後には、大学の施設を借りてコンサートが行われました。「キリストにある喜び」をテーマにしたこのコンサートは印象に残るすばらしいものでした。

日曜日、主使徒は中部ジャワ州ゴンボンまで列車で移動しました。ゴンボンで行われた礼拝で、主使徒は人々への祝福をテーマに行い、さらに7月5日に行われる故人のための特別礼拝を準備しました。聖句はペトロの手紙一3章8-9節であります「終わりに、



皆心をついに、同情し合い、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい。悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。」

教会とその周辺には、2,707名の魂が集いました。またインドネシア全体の10,434名の魂が衛星中継で参加しました。主使徒は次のように説きました「祝福となるために、私たちが罪の無い完全な者である必要はありません。ただ神は、御自身がどのようなお考えを持っておられるかを、私たちに理解してほしいと思っておられます。神様は私たちに御自身の栄光を与えようとして下さいますし、隣人にも栄光を与えたいと願っておられます。そして私たちが神様のお考えを理解し、栄光を悟った時、神様は栄光を私たちに分け与えて下さいます。同様のことを私たちの隣人にもなさることがわかれば、私たちはこう断言できます「わかりました。その通りです。自分もこの栄光に入りたいと思いますし、隣人にもその栄光に加わってほしいと思います。」祝福となるためには、イエス・キリストのようになる必要があります、そのために聖餐という賜物に与ります。

そのような効果が聖餐によってもたらされるためには、完全である必要はありませんが、イエス・キリストの御旨と同じである必要があります。私たちは神の御国に入りたいですし、隣人にも入ってもらいたいと思います。イエス様の御旨と同じであれば、私たちはイエス様のようになることができるのです。」

主は飢えた人を良い物で満たして下さる

シュナイダー主使徒は昨年12月に、フィリピンの首都マニラにあるマカティ教会を訪問しました。フィリピンには四万人以上の新使徒教会員がおり、ウルス・ヘーバイセン教区使徒と1,500名以上の教役者による配慮を受けております。

物を食べる必要性を訴える感覚が、空腹であり飢えであります。この感覚により、栄養失調を知り、物を摂取することによって体調を回復させなければならないことを知ります。聖書で使われている飢えとは、魂が神の賜物に与らなければならないことを象徴する言葉であります。

例えば、私たちの魂には安心が必要です。天使はマリアを呼んで、神の御子、永遠の支配者となる王を産む者として、彼女が選ばれたことを告げました。しかし、御子であり王となるべきお方を産んだのは馬小屋であり、そのお方が寝かされたのは飼い葉桶の中でした。神はマリアを力づけてあげようとお考えになりました。しかし、神が直接そうなさったのではなりません。代わりに羊飼いを彼女のところに遣わされました。羊飼いたちはマリアのところに outward しました。そして自分たちが天使に会って、神の御子がお生まれになったという天使から聞いた話を、マリアにしたのです。その話は、彼女に与えられた約束を裏付けるものでした。神は、私たちが神の子とし、私たちがイエス様と一緒に永遠に統治することを、私たちに約束して下さいました。これは、神様が私たちを試みや苦しみから逃れさせて下さる、ということではありません。

しかし確実に言えることは、神が御自分の約束を成就させるために、僕をお遣わしになる、ということでもあります。

信仰、恵み、知恵において成長する

信仰が強まることは大切です。真の信仰とは、言葉の信憑性を信じるのではなく、神の御旨を行うことでもあります。私たちの中で、いつも神の御旨を行っていきますよ、と公言できる人はいるでしょうか。躊躇せずに神にこう申し上げましょう「信じます。信仰のないわたしをお助けください」(マルコ 9:24)。神は、どうすれば私たちの信仰を強めることができるのかを御存知なのです。

私たちには恵みが必要です。ペトロは、奇跡が起こって魚が大量に取れた時に、自分がいかに偉大なイエス様と遠いところにいるのかを実感しました「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」(ルカ 5:8)。神は私たちを愛して下さる父であり、イエスは私たちにとって最高の友であります。しかし神の恵みと偉大さを、決して忘れてはいけません。神様やイエス様に近づきたいならば、恵みが必要です！「神は、高慢な者を敵とし、／謙遜な者には恵みをお与えになる」(ヤコブ 4:6)。

私たちにとって成長すべきもう一つ分野は、知識であり知恵であります。祈りを通して知恵をいただけるよう、神様にお願いしましょう。そしてあのマリアのように、知恵や知識について、時間をかけてよく考えましょう。「しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた」(ルカ 2:19)。神様に知恵をお願いすれば、それを与えて下さいます(ヤコブ 1:5)。



私たちの魂は神と親しく交われるのを渴望しています。この交わりは、私たちが悔い改めの心を持って神様のところに行くならば、聖餐を通して体験することができます。私たちが思い込んでいる偏見を排するな

らば、兄弟との交わりの中で神様との交わりを見出すことができます。救いへの渴望を祈りに反映させるならば、神様はその祈りを聞いて下さいます (ルカ 18:7)。

まとめ

ルカによる福音書 1 章 53 節

「飢えた人を良い物で満たし、／富める者を空腹のまま追い返されます。」

祈りの中で、謙虚な気持ちで、安心、強い信仰、知恵を求めて神様にお願いし、神様との交わりに導いていただくようお願いするならば、神様はその祈りに応えて下さいます。

(新使徒教会季刊誌 Community 第 2 号 DOCTRINE より)

新使徒信条

今年 9 月、新使徒教会教理問答集が、書籍として発行されます<英語版など>。ここでは 750 項目ある問答の抜粋として、新使徒信条に関する部分を紹介します。

信条とは何ですか。

信条とは、信仰の教義において最も重要な内容をまとめたものであります。信条には、その宗派が告白しているすべての事柄が含まれています。信条があることによって、各宗派の独自性を表すことができます。

初期に出されたいくつかのキリスト教信条はどのような経緯で作られましたか。

初期に出されたキリスト教信条は「初代教会諸信条」と呼ばれています。これら諸信条は紀元 2～3 世紀の間に作られました。神の三位一体性やイエス・キリストの本質に関する教義が確立したのも、この時期です。

こうした教義が必要になったのは、信仰の内容について様々な論争が生じていたためです。例えば、本当はイエス・キリストが十字架上で死んだというのは事実でなく、復活という事実も無かった、という説が出てきました。信条を定めることは、こうした異説との区別化を図るためだったのです。

初代教会諸信条の中でも、最も重要な信条は何ですか。

初代教会信条の中で最も重要なものは二つあります。一つは使徒信条で、もう一つはニカイア・コンスタンチノポリス信条であります。使徒信条は、その基本部分が 2 世紀に作られ、その他の部分が 4 世紀に加えられました。ニカイア・コンスタンチノポリス信条は、ニカイア公会議 (325 年) の決議を受けたものです。ニカイア・コンスタンチノポリス信条は、神の三位一体性を正式に文書の形で告白することが主な目的でした。



公会議とは、各宗派の高位聖職者が集まって、信仰に関する重要案件を議論する会議を言う。

新使徒教会にとって、初代教会諸信条の持つ意義は何ですか。

新使徒教会の教義は、聖書に基づいています。初代教会所信条は、聖書が証している重要な内容をまとめたものです。

新使徒教会は、三位一体の神を信じ、その一つの位格がイエス・キリストであることを信じ、イエス・キリストが真の人としておとめマリアによって生まれたことを信じ、聖霊が遣わされていることを信じ、教会、 sacrament、キリスト再臨への期待、死者の復活を信じることを公言しています。これらは、初代教会に作られた使徒信条及びニカイア・コンスタンチノポリス信条でも言及されています。

宗派ごとに相違はあるものの、これらの信仰告白はキリスト教徒のなかでは拘束力のある要素であります。

「告白」という語は「信条」または「所属教会」を意味することもある。他のキリスト教宗派について「他の信仰告白」という言い方もある。

新使徒信条の信条文とは具体的にどのようなものですか。

「私は、天地の創り主、全能の父である神を信じます。」

「私は、神の唯一の御子、私たちの主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によって宿り、おとめマリアから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府よみに下り、三日目に死人のうちから蘇よみがえり、天に昇られたことを信じます。そして全能の父である神の右に座し、そこから再びおいでになります。」

「私は、聖霊と、唯一で聖なる公同の使徒的教会と、聖徒の交わりと、罪の赦しと、死者の復活と、永遠の命とを信じます。」

「私は、主イエスが御自身の教会をお治おさめになること、そのために使徒をお遣わしになったことを信じます。そして御自身が再びおいでになるまで、教え、イエスの御名によって罪を赦し水と聖霊とによるバプ

テスマを授ける職務を、使徒にお委ねになったことを信じます。」

「私は、神によって定められた教役者が使徒によってのみ任命されること、牧会宣教職に与えられる権能、祝福、聖別は使徒職からもたらされることを信じます。」

「私は、水のバプテスマが聖霊による人の新生に至る第一段階であること、水のバプテスマを受けた者が、イエス・キリストを信じイエス・キリストが主であることを公に宣べ伝える者たちの仲間に加わることを信じます。」

「私は、キリストが完全に有効な犠牲としてただ一度捧げられ、断腸の苦しみを受けた末に死なれたことを記念して、キリスト御自身により聖餐が制定されたことを信じます。聖餐にふさわしく与ることにより、私たちの主であられるイエス・キリストとの交わりが築かれます。聖餐は、種入れぬパンとぶどう酒によって、執り行われます。このパンとぶどう酒は、必ず使徒から任職を受けた教役者が聖別して、これを施します。」

「私は、水のバプテスマを受けた者が、神の子としての身分を受け、初穂となる要件を獲得するために、使徒によって聖霊に与らなければならないことを信じます。」

「私は、主が昇天されたのと同様に必ずまたおいでになり、主の来臨に希望を託しそのために自らを整えてきた故人や存命者たちを、初穂として御許に引き寄せて下さることを信じます。また、天における婚姻の後、主がその初穂と共に地上にまたおいでになり、平和の御国をお建てになることを信じます。そして、初穂たちが王の祭司として主と共に御国を治めることを信じます。平和の御国の終結後、主は最後の審判を下されます。そして神は新しい天と新しい地をお創りになり、御自分の民と共に、永遠に住まわれます。」

「私は、神による律法が侵されない限り、この世の権力に服従する義務を負うことを信じます。」

新使徒信条の意義は何ですか。

信仰十箇条すなわち新使徒信条では、拘束力のある表現を用いて、新使徒教会の教義を定めています。

さらに新使徒信条によって、他宗派に対して新使徒教会の信仰の要点を示すことができます。